ボーリング柱状図

調　査　名　その他河川東川　通常砂防事業に伴う業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Bor. No. 7	調査位置	広島県豊田郡大崎上島町木江地内	北緯	34° 14’ 24.4817”
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	平成 2017年 9月 19日 ～ 2017年 9月 21日	東経	132° 54’ 49.5458”
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	T.P. 73.53m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	11.00m	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	使用機種	試錐機 / エンジン / ハンマー落下用具 / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1	72.53	1.00	1.00		礫混じり砂質粘土	淡灰褐	緩		崩積土。径20mm程度の風化礫が混じる。粘土～細砂状で指圧で崩れる。含水時は強い粘性を示す。		
2					粘板岩	淡灰褐			粘板岩強風化土。岩芯まで風化し土砂～軟質岩片状コア主体。所々岩組織を残し傾斜10～20°の層理が見られる。深度3～4m間は岩相が乱れ粘土化著しい（表層地すべりの可能性あり）。	DL	
3											
4	68.63	3.90	4.90								
5	68.08	0.55	5.45		粘板岩	暗灰			粘板岩の強風化部（軟岩Ⅰ）。岩組織は残すがコアは指圧で砕ける。	DH	
6					粘板岩	青灰褐			風化粘板岩。岩片～短柱状コア主体（軟岩Ⅰ）。岩片はやや軟質化している。基質は泥質～砂質で傾斜10～20°の層理を示す。全体に白色の変質脈が発達し砂質部は硬化している。脈沿いに割れ目が発達し風化が進んでいる。	CL	
7											
8	64.98	3.10	8.55								
9					粘板岩	青灰褐			短柱状コア主体（軟岩Ⅱ）。白色変質脈が発達。全体に砂質分優勢で岩片は硬化している。割れ目に褐色土砂が流入している。	CM	
10											
11	62.53	2.45	11.00								
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	4	5	5	14／30
1.45				
2.15	5	6	8	19／30
2.45				
3.15	3	3	2	8／30
3.45				
4.15	5	6	6	17／30
4.45				
5.15	9	27	14／5	50／25
5.40	50／1			50／1
6.00				
6.01				

N 値　0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						9／19
						9／20
						9／21